

平成26年11月1日号 (No.145)

## 「 凡 事 徹 底 」

伊丹市立総合教育センター  
所長 後藤 猛虎

松下電器産業（現・パナソニック）の創業者である松下 幸之助氏は、経営がうまくいっている企業、伸びる企業は、訪問すればすぐわかると言っています。それは、次の3つのことが徹底してできている企業だということです。



1つめは、「いらっしゃいませ、おはようございます」という挨拶が返ってくる企業」

2つめは、「事務所や工場がきれいに整理整頓されている企業」

3つめは、「トイレの掃除が行き届いている企業」

つまり、全社員が挨拶、整理整頓、掃除を徹底してできる企業が伸びる企業だということです。しかし、全社員がこのことを徹底することは、簡単そうでなかなか難しい。この簡単で当たり前のことを徹底して実行し続けること。これが『**凡事徹底**』です。

さて、先日、尼崎市立水堂小学校を訪問する機会がありました。この水堂小学校は、ここ5年間で著しく全国学力調査の正答率が向上した学校です。この学力向上への取り組みに凡事徹底を見ることができます。例えば、子どもたちの学習習慣や基本的な生活習慣、自尊感情などの可視化を徹底しています。「先生や友だちが話をしている時、手を止めて話を聞いていますか」「下足箱では靴のかかとをそろえていますか」「クラスは頑張ったことを認めてくれますか」等、できているかを確認するための評価アンケートを子どもたちに年4回実施し、その状況を数値化（可視化）し、徹底して子どもたちの行動や気持ちを時系列に分析し改善に生かしています。また、朝の読書は、教員も必ず一緒に読書をします。10分間の計算タイムでは、必ず答え合わせをし、間違いを確認します。平凡なこと、些細なことを徹底して実行しているのです。その他、放課後指導も全学級が毎日取り組んでいます。放課後指導をする学級やしない学級があるような曖昧な取り組みはしていないのです。

学力向上はもとより、経営がうまくいっている学級、学年、学校は、決めたことは簡単なことでも全児童・生徒、全教職員で成功するまで徹底してやり続ける凡事徹底の学校ではないでしょうか。

# 福井教育フォーラム参加報告

10月16日、17日の両日、「福井から変える 日本の教育」－これからの学力向上の方策を探る－と題し、福井教育フォーラム（主催：福井県教育委員会）が開催されました。伊丹市教育委員会、学校から合計15名以上が参加しました。

今号では、参加者が見聞きした福井の教育の秘訣について、エッセンスをお届けします。

## 福井県の状況

学力 (H26)	小学校	国語 A : 9 位	国語 B : 3 位	算数 A : 2 位	算数 B : 2 位
	中学校	国語 A : 2 位	国語 B : 1 位	数学 A : 1 位	数学 B : 1 位
体力 (H25)	小学校	1 位	中学校	2 位	

★ 記念講演「福井県の学力・体力がトップクラスの秘密」（大阪大学大学院教授 志水 宏吉 氏）

★ シンポジウム「考えよう、これからの学力向上に大切な視点」

## 福井の学力が高いのはなぜ？

- 1 すぐれた教師がいる
- 2 大学とのつながりがある
- 3 S25～ 独自で学力検査をしている  
S26～ 体力調査を続けている
- 4 学力調査の問題を全教員が一緒に解いている
- 5 教員同士が学び合う姿勢、安定したコミュニティがある
- 6 異動により職員が変わっても、継続した取組ができる

## 「学校全体の教育力向上に関する指針」

（福井県教育委員会）

- ①あなたは、**毎年6冊以上の教科や教職等に関する専門書**を読んでいますか。
- ③あなたは、**教員以外の人たちと語り合う**機会を持っていますか。
- ④あなたは、あなたの学校の**教育目標をいつも意識**していますか。
- ⑥あなたは、**昨年の授業とは一歩工夫**して授業をしていますか。

（一部抜粋）

## 授業・家庭学習での取り組み

- 1 話し合いの授業ばかりではいけない。
- 2 子どもが「考える」「書く」時間を確保する。教師は黙る。
- 3 学校中の児童生徒全体の充実につなげる。
- 4 ドリルだけの宿題ではいけない。自己学習をさせる。  
\*宿題は必ずしてくる。万一忘れても、必ずする。
- 5 “地域の誇り”を教材の中にもうめこむ。
- 6 福井発『ホワイトボード』の活用  
考える時間の確保  
宿題を生徒が作ることも
- 7 多くの教師が同じベクトルで働く
- 8 重要なのは『人』

独自例：

- ・各教科縦持ち(1～3年生)の指導により、全学年を見る
- ・テストが多い(定期テスト+確認テスト)
- ・確認テストのための問題集を教員が作る

## 福井の「鍛える」教育文化

- ・ まじめな教員（教員の勤勉さ、教員の質の高さ、研修への参加）
- ・ やらなければならないことをとことんやる学校文化（体力作りで十分すぎるほど走る、とことん習熟度別に補充学習をする、きめ細かい生徒指導 など）
- ・ 行政の施策に真摯に向き合う
- ・ それを支える家庭と地域（三世同居、まとまりのある地域）

**参考にしたい「あたりまえ」に真摯に取り組む教育文化**

★ 授業公開

## 授業名人による身のまわりの事象を生かした算数指導（坂井市立春江西小学校）

### 【福井のエッセンス】

一つ一つの取り組みがとことん徹底されている！

### 【ここがすごい！】

- ・ 授業の開始時に概数を唱えるなど、基礎基本の定着が徹底されている。
- ・ 考える時間、書く時間がしっかり確保されている。その結果、子どもは自分の考えを書くことに慣れていて、抵抗がない。
- ・ 他地域から見るとおどろきの宿題量・テスト回数（それが福井ではあたりまえ）
- ・ 教師は宿題・テストを最後まで手直しさせる。テストは最終的にどの子も100点になるまでやり直しさせる。



基礎基本を徹底して教える

授業名人：わかりやすい授業を展開し、優れた実績を上げている教員を福井県教育委員会が『授業名人』に任命しています。これまでに171名が任命されています。

## 授業名人による身近なものを教材として活用した理科指導（福井市立進明中学校）

### 【福井のエッセンス】

「書く時間」を確実に確保し、書かせている時間は沈黙が守られている！（教師も絶対しゃべらない）

### 【ここがすごい！】

- ・ 小中連携が組織化され、授業づくり、生徒指導、特別活動、小中連携の4つの部会をそれぞれの小・中学校の教師で組織し、具体的な取組を確実にやっている。（例えば「学習規律」や「言語活動の充実」は授業づくり部会で考え、小中一貫して取り組ませるなど）小中連携により、中1ギャップを防ぎ、指導が徹底できる。
- ・ 予想、実験結果から推論させる学習活動を多く取り入れ、徹底的に活用型の授業を行っている。
- ・ 「学年課題」「各教科からの宿題」を毎日出し、学年課題（1日1教科）は担任が丁寧にノートチェックする。「宿題はとても多い」と話す子どもたちも小学校から徹底されているのでほぼ全員やってくる。できない子どもには個別に指導している。ここにも小中連携が実践的に活かしている！！



熱心に自分の考えを書く

## 無言清掃・礼などを重んじた生活指導を基盤とした学習指導

### 【福井のエッセンス】

自分たちの取り組み・学校に誇りを持っている！

### 【ここがすごい！】

- ・ 雑巾のみを使い、無言で清掃を行う。音楽を合図に準備し、音楽が変わると黙想する。音楽が終わると無言清掃の開始。移動は走って行く。持ち場を終えたら「気づき」の掃除（自分で掃除すべき箇所を見つける）。縦割りの持ち場で上級生が見本に。
- ・ 登下校時、校門に引かれた白線で立ち止まり、校舎に向かって一礼する。
- ・ 授業始まりのチャイムと同時に黙想を始める。教科担任は授業2分前には教室へ入る。



無言で清掃を行う

# 大切にしたい情報モラル

私たちの生活に携帯電話が入ってきて20年弱。携帯電話・スマートフォンは新しいコミュニケーションを生み出した反面、影の部分も指摘されています。

子どもに情報モラルを教える教員として、自分自身が高い情報モラルを持つことが求められます。自分自身の携帯電話・スマートフォンとのつきあい方を見直してみましょう。

## 【ネットを介したコミュニケーション】

### ① ネットの向こうの相手は本当に信用できますか？

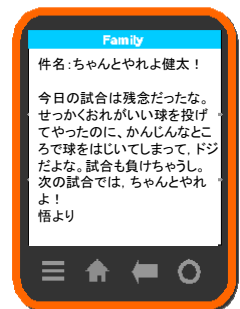
ネットを介したコミュニケーションでは、これまで接点がなかった人と簡単に知り合うことができます。しかし、相手は本当にあなたが思っているような人なのでしょうか？ 別人を騙る「なりすまし」によりだまされたり、詐欺などの被害に遭ったりすることもあります。また「出会い系」「非出会い系」サイトでは、性別に関するウソ、年齢に関するウソ、援助交際目当ての書き込みなど、犯罪の芽がたくさんころがっている状況があります。



### ② あなたの言葉は正確に相手に伝わりますか？

対面でのコミュニケーションや電話と違い、文字のみのコミュニケーションではニュアンスがうまく伝わらず、トラブルになりがちです。また、「つながること」に重きが置かれ（例：内容はともかくとにかく短い間に返事しなければならぬ）、コミュニケーションの中身が空虚になりがちです。私たちは自分の発する言葉に慎重になると同時に、子どもに中身の伴ったコミュニケーションの大切さを伝えていかねばなりません。

トラブルを招くやりとりの例



## 【ネット上での情報発信】

### ③ ネット上のやりとりは常に誰かに見られる可能性があります

先日もあるアイドルが個人的に（ごく親しい人だけが見ることができる設定をして）書いていた書き込みが流出し、その中で同じアイドルグループのメンバーを中傷していたとのことでネット上で大きな話題となりました。このことから2つの教訓が得られます。

- ① 個人的な書き込みでも、人の目に触れてしまう可能性が常にあること
- ② 人から注目される職業の人間は、常に言動に気をつける必要があること

職務に関わること、個人情報に関わることは絶対にネット上に書き込んではいけません。メンバーを限定したサービス（LINE、Twitter、Facebook など）であっても、メンバーの一人が転載したことで情報流出した事例が多くあります。

また、メールで仕事の愚痴を別の人に誤送信してしまったことから、情報流出した事例も見られます。ネットでのやりとりは、常に誰かに見られる可能性があることを意識しなければなりません。

生徒の答案画像をネット上で公開 大阪府立高の女性講師 “炎上”して学校に報告

平成23(2011)年12月8日 読売新聞

大阪市内にある大阪府立高校に勤務する20代の女性非常勤講師が、生徒の答案用紙の一部を撮影した画像を、インターネットの写真投稿サイトに公開していたことが7日、分かった。

(中略)

投稿されていた答案用紙の画像は2枚。短文投稿サイト「ツイッター」に連動した写真投稿サイトに、6日に公開された。答案用紙に書き込まれた解答の一部をアップで撮影し、「なんでやねん。笑」などと、解答を揶揄するようなコメントも書き込んだ。生徒の名前は写っていない。

### ④ ネットは「匿名」ではありません

ネット上では匿名で情報発信ができることから、つい言動が過激になってしまふことがあります。しかし、ネット上の行動はほぼ100%追跡できます。ネットは実は「匿名」ではないのです。分からないだろうと軽い気持ちでしたことが刑事罰、民事訴訟の対象となることもありますし、ネット上で個人情報がばらまかれる「特定」「晒し」の対象となり、取り返しがつかないことにつながることもあります。

